

宝塚市で子どもたちに自然や生き物のおもしろさを伝える ～しぜんクラブの活動 2014～

稗田 勲・大倉保子・小野恒義・林 光代・岡田義晴・丸山幸子・丸山健次（しぜんクラブ）
小島華子（フレミラ宝塚）

はじめに

私たち“しぜんクラブ”はフレミラ宝塚で開講している高齢者大学、“いきいき学舎・フレミラ”「環境・自然コース」の卒業生と在校生の任意のグループです。フレミラ宝塚は『宝塚市立老人福祉センター』と『大型児童センター』の複合施設です。高齢者と児童が、ふれ合い、みらいを築く場所として、相互に交流を深めることを目的に様々な事業が行われています。「環境・自然コース」では自然体験教育研究所 足立勲先生をはじめとし、兵庫県立人と自然の博物館の先生方の授業を2年間受講します。授業では、私たちの身近な動植物や環境の変化、生物多様性などについて学びます。そこで学び体験したことを活かして、地域の子供達に何か発信したいという思いから“しぜんクラブ”を立ち上げました。

しぜんクラブの目的は、地域の子供達と一緒に自然を学び、楽しむことです。思いを伝えたい私たちが楽しくなければ、子供達に楽しさは伝わらないと思います。まずは自然への関心をもってもらう。そして楽しんでもらう。その経験があれば成長してからもそのことを思い出してくれると思います。

1年間の活動紹介

<春>

「しぜんとあそぼう 春の山野草さがしとヨモギだんごクッキング」
(小学生20名とスタッフ12名が参加)

教室で山野草の種類や形状・生態について学んでから、外に出て実際に春の山野草の観察をしました。採取したヨモギでヨモギ団子を作り、香りや味を感じながら試食することで、雑草とよばれる身近な植物にも食べられるものがあることを知ってもらいました。

<夏>

「しぜんとあそぼう 虫と葉っぱのワクワク大発見！」
(小学生110名とスタッフ30名が参加)

フレミラ宝塚の屋内運動場で行う毎年恒例のイベントです。

「アンモナイトの化石のレプリカ作り」や、「マツカサの花かご作り」、「虫の捕り方教室」、「蚊帳遊び」を実施しました。「虫の捕り方教室」では虫捕り網の使い方から虫の触り方・育て方まで教えます。大きな蚊帳の中に昆虫を入れ、その中に入って直接虫に触ってもらう「蚊帳遊び」もとても人気があります。

「夏休み不思議シリーズ① 動物の骨ってどうなってるの？」
(小学生20名とスタッフ8名が参加)

本物のシカやイノシシの骨を使い、骨格標本を作りました。骨の形や大きさ・関節の繋がりなどを学びました。

「夏休み不思議シリーズ② 草木染めに挑戦！」
(小学生20名とスタッフ12名が参加)

近隣で採取した草木や自然の材料を使いバンダナを染めました。アルミや鉄など媒染剤の種類によって変化する色の様子も観察しました。

<秋>

「わっしょいフレミラ秋まつり」

(来館者が自由参加、スタッフ 19 名が参加)

フレミラ宝塚全体のおまつりに、しぜんクラブとして出店しました。マツカサに木の実やフェルトで飾りつけをした「クリスマスツリー作り」、紅葉した葉っぱを使って洋服をデザインする「着せ替えカード作り」、木の枝や木の実を使って自由に作ってみるコーナーなど、子どもも大人も自然の素材を使って工作を楽しめるようにしました。

また、秋には秋の昆虫で「蚊帳遊び」をしました。

<冬>

「ひとはく Kids キャラバン」

人と自然の博物館が行っている市内の児童館向けのプログラムに、スタッフとして参加しました。去年は工作で「マツボックリのお正月飾り」を担当しました。

まとめ

「蚊帳遊び」では、チョウチョウやバッタを手のひらに乗せて最初はビクッとしていた子どもが、帰るころにはカマキリを手に乗せてニコリ。「春の山野草さがし」ではヨモギ団子を初めて作る子どもも多く、丸める団子の大きさも形も様々でしたか、美味しいのでお父さんやお母さんに持って帰りたいという子もいました。そんな子どもたちの成長や反応を見ると、私たちも嬉しく楽しくなります。

ペンネームに“虫”という字を入れるほどの昆虫好きだった手塚治虫が幼少時代を過ごした町、宝塚から、「未来の昆虫・植物博士を育てよう～学ぶそして繋ぐ次世代の子供たちへ～」をテーマに、これからも楽しんで活動していきたいと思えます。